

わたしのまちのPR ピーアール



池田市編

<新コーナーの目的>

地域間競争が激しさを増す中で、地域が輝きを増していくためには、わがまちの宝を眠らせることなく、その存在をアピールし、住民の暮らしや産業の振興などに役立てていくことが重要です。

このような観点から、本コーナーでは、府内市町村の企画担当の方々へのインタビューを通じて、まちの特徴や強みといったものを取り上げ、各市町村の良いところをどんどん発信していきたいと考えています。

新企画のトップバッターとして、池田市にご登場いただきます。池田市は大阪府の北西部にある人口約10万人の都市で、市域の西側に猪名川、中央に五月山を有する水と緑に恵まれたまちです。

江戸時代には酒造り、細河郷の植木を筆頭に、近郷の物資の中継地として栄え、明治時代には国の出先機関のほか、大阪府池田師範学校が設置されるなど、地域における政治、経済、文化の中心地として発達しました。そして、明治43年の箕面有馬電気軌道（現：阪急電鉄）の開通などにより、大阪都市圏の住宅都市として発展し、昭和14年、府内で6番目に市制施行しました。

わが国初の割賦による住宅分譲やインスタントラーメンの発明など、「事始めのまち」としての歴史、気風を大切にしながら、大阪国際空港や高速道路網に代表される都市基盤のもと、自動車産業などの新たな都市型産業を育むなど、着実な発展を遂げられてきました。

現在、倉田市長の強力なリーダーシップのもとで、「小さくとも世界に誇れる池田」をスローガンに、「緑にあふれ、歴史文化が輝く世界に誇れるひと・こころ交流都市」の実現をめざし、行財政改革を推し進めながら、先進的な施策を展開しておられます。

この池田市の特徴や強みといった事について、総合政策部次長兼政策推進課長の北村さんにお話を聞きしてきました。

本日は、どうぞよろしく申し上げます。早速ですが、「池田市ならではの」のもの等について、歴史・文化といったあたりから教えていただけますか。

よろしく申し上げます。当市ならではのものには、様々なものがありますが、歴史・文化という点では、なんと言っても北摂随一の火祭りである「がんがら火祭り」ですね。江戸時代から続く伝統行事で郷土の重要な文化的遺産です。

毎年8月24日夜に五月山の愛宕（あたご）神社でご神火をもらい、秀望台（五月山展望台）の南斜面にある「大一」の文字に点火します。その後、山を下って、2本1組の大松明に火が移され、「人」文字に似た2基の大松明が半鐘や八丁鉦の音に合わせて市内を練り歩きます。この大松明の大きさは1本の長さが4 m、重さが約100 kgあり、迫力満点です。また、五月山の東方斜面（大明ヶ原）では、「大」の字がともされます。こちらは織姫伝説が残る「星の宮」でご神火をもらいます。

享和3年（1803年）の曲亭馬琴著「俳諧歳時記」にも「大阪北の町はづれより望ミ見レバ星の如し」と記されているように、とても素晴らしいものですので、ぜひ見に来ていただきたいですね。

がんがら火祭り



江戸時代から続く伝統行事というのは、貴重ですし、また、人々の一体感が感じられて素晴らしいですね。

また、もう一つ、池田市は古くから「池田の猪買い」等、落語の題材にも取り上げられています。初代・二代目桂春團治師匠の碑が市内の寺にあり、毎年4月29日に「桂春團治一門落語会」を市民文化会館で公演していただいております。加えて落語家の桂三枝さんも市内に住んでおられます。池田と落語はゆかりが深いのですよ。

そういえば、落語に関して新しい取組があると聞きましたか。

そうですね。日本の伝統文化である落語を継承し、文化振興と地域の活性化を図るため、いけだ市民文化振興財団が計画している「(仮称)らくごミュージアム」整備事業に助成を行います。今後、このミュージアムも活用して、“落語のまち池田”をPRしていきたいと思っています。

イベントなどで、他にも何かありますか。

主なものとしては、4月の五月山さくらまつり、6月の花菖蒲まつり、8月の猪名川花火大会などがありますね。特にさくらまつりは、多数の野外アト

ラクションや市内の各種団体による食べ物、手作り品の販売があり、子どもから大人まで楽しめるイベントです。また、さくらまつりの前後1週間は五月山公園一帯で夜桜照明をお楽しみいただけます。五月山は、さくらの名所であるので毎年大勢の人で賑わっています。

池田市は交通の便に恵まれた所なので、こうしたイベントにも参加しやすいでしょうし、また、住民の方々も生活に便利でしょうね。

ええ、阪急電鉄宝塚線で大阪（梅田）から約20分のところですし、大阪国際空港や中国自動車道もすぐ近くにあります。京都や神戸にも1時間以内で行くことができます。池田市の誇れる特徴として、「都心に近く、通勤や買い物に便利なこと」、「交通の便がよいこと」、「五月山公園などがあり、自然が豊かなこと」があげられます。

なるほど、よく分かりました。ところで、池田市といえば、「事始めのまち」と言われていますね。これはすごくいい特徴だと思うので、ぜひ教えてくださいいただけますか。

明治43年に阪急電鉄（当時、箕面有馬電気軌道）が、室町という所で、日本で最初の「建売分譲」、「長期割賦」方式により住宅を販売したんです。小林一三氏（阪急グループの創始者）が考案したのですが、電鉄沿線に郊外住宅地の開発を考え、大阪方面に通勤する人達を自社の鉄道で運ぶ計画を立て、その手始めが池田の室町住宅だったそうです。頭金50円、残金は10カ年で月々24円の月賦払いというユニークな商法（日本初の住宅ローン）での販売は大変好評であったそうです。今では当然のようになっていますが、当時のアイデアとしては画期的でした。

この室町住宅の自治会は、昭和25年に社団法人となり、現在も積極的な活動を続けています。ちなみに、全国の自治会組織のなかでも法人として認められているのは、この室町と同じく小林一三氏が主導した東京都大田区の田園調布など、ごく少数しかないと聞いています。

それと、20世紀最大の発明の一つと言われるインスタントラーメンがこの地で誕生したこと。こうした事の積み重ねが、池田市が「事始めのまち」と言われるゆえんです。

インスタントラーメンの発祥の地というのは有名ですね。

1958年（昭和33年）に、日清食品の安藤百福氏が池田市において世界で初めてインスタントラーメンを発明しました。

現在、「インスタントラーメン発明記念館」というのが阪急池田駅より徒歩で5分のところにあり、そこでは、安藤氏の研究小屋が復元されています。また、マルチビジョンを使って「カップヌードル」や「チキンラーメン」発明のエピソードを解説したり、インスタントラーメンの手作り体験もできて、一日中楽しめます。年間25万人の人が訪れています。

こうした「事始めのまち」の風土、気風というのは、これからも大切にしたいですね。ところで、話題が変わりますが、地場産業での特徴といった事についてもお聞きしたいのですが。

地場産業では、江戸時代から酒造りと植木が有名です。特に、酒は池田を代表する商品のひとつです。池田の西には水量豊富な猪名川があって、酒造りに適していました。現在も池田で製造されている「呉春」は全国的に知名度があります。他に「緑一」といった銘柄の酒もあります。

植木については、全国的に有名で、ここ池田市の

インスタントラーメン発明記念館



ほか、埼玉県川口市安行、愛知県稲沢市、福岡県久留米市と並んで、日本4大植木生産地となっています。今は、細河地域の認定農業者^{*1}の有志でつくる「細河植木塾22」^{*2}が植木の見本園づくりに取り組んでおられます。

- ※1 認定農業者…農業経営基盤強化促進法に基づく、経営改善計画の認定を受けた農業者。認定を受けると、低利融資や税制上の特例、経営相談などを受けられる等のメリットがある。
- ※2 細河植木塾22…認定農業者の有志が参画し、植木産業を取り巻く厳しい状況の中で、「22世紀を見据えた植木づくり」「植木塾の取組で、認定農業者が22人以上に広がるように」などの意味を込めて結成。植木産業の活性化方策や地域の将来について主体的に研究し、可能なものから取り組み、細河の植木産業の活性化に向けて活動している。現在、活動している認定農業者は18名。

なるほど。地域の方々の自主的な取組は、まちの発展を進めていく上でも大きなポイントですね。ここで池田市におけるまちづくりについてお聞きしたいのですが、特に重点を置いている取組などを紹介していただけますか。

施策について申し上げますと、今、子育てと教育に力を入れています。

昨年に「池田市子ども条例」^{*3}や「池田市みんなでつくるまちの基本条例」^{*4}を制定し、次世代育成や市民との協働を基本に独自施策を展開しています。子育てでは全職員を対象としてアイデアを募集し、職員の意欲、提案を反映させて事業化したものを平成18年度の新規事業としてスタートします。地域で子どもを見守る「子ども見守り隊」の設置や、子育て中の親子の交流、相談、情報提供の場としての「つどいの広場」を開設するなど、9つの事業を新たに実施します。

この他にも、市立幼稚園と市立保育所を一体化し、平成19年度から新たな施設をオープンする計画もあります。

- ※3 池田市子ども条例…子どもの育成に関し、保護

者、地域住民、学校、事業者及び市のそれぞれの責務を明らかにするとともに、子どもの育成に関する市の施策の基本的事項を一体的かつ総合的に定めたもの。出産、子育てに対する市民の不安や障壁を取り除くことにより、安心して子どもを生み育てることができ、かつ、子どもがひとしく健やかに成長できる社会の実現を目的としている。平成17年4月1日施行。

- ※4 池田市みんなで作るまちの基本条例…条例案づくりから市民が参画し、池田市の最高規範として制定したもの。いわゆる自治基本条例。市民がまちづくりの主体であることを再認識し、命の尊さと人権を尊重し、お互いに助け合いながら“未来のまちづくり”に積極的に取り組むことを宣言するとともに、市民と市議会、執行機関の3者がまちづくりの基本理念を共有し、協働して取り組むルールを定めている。平成18年4月1日施行。

新たな取組をどんどん打ち出しておられますね。

従来からある事業にも、特徴的なものがありますよ。例えば、市内の企業であるダイハツ工業（株）の協賛を得て、第4子を出産された家庭に対して、3年間無償で軽自動車（ムーヴ）を提供（リース）いただいております。

地元企業と連携した事業というのは参考になりますね。事業を開始するキッカケみたいなものはあったのですか。

平成9年に「池田市エンゼル祝金条例」^{※5}を制定した時に、その趣旨に沿った子育て支援策として、倉田市長の呼びかけに応じてダイハツ工業（株）が地域社会への貢献ということから協力いただいています。平成9年より62世帯の方がこの制度を利用されています。

- ※5 池田市エンゼル祝金条例…市民の出産を祝福するとともに、次代を担う子どもたちの健やかな成長を願い、第3子以上の出産世帯に対してエンゼル祝金を支給する。平成9年4月1日施行。但し、10年間の有期限条例。

そういえば、「教育のまち池田」特区も有名ですね。

小学校全学年で週1時間の「英語活動」、小学校の高学年で年間20時間の「科学・情報の時間」を実施しているほか、35人学級編制を3年生まで拡大しています。

池田市さんの子育て、教育に対する熱意が伝わってきますね。他にもユニークな施策があれば教えていただけますか。

平成18年度からスタートするものをご紹介しますと、ごみの減量、資源化を推進するために指定袋制を導入し、家庭ごみの20%削減をめざします。燃えるごみの年間排出量の80%分に相当する指定袋を無料配布し、取組を進めていきます。また、レジ袋の削減に取り組むため、全国からデザインを一般公募し、池田市オリジナルのマイバッグも作製します。

新しい取組をどんどん打ち出しておられるところにも「事始めのまち」の気風が感じられます。最後に、池田市での今後のまちづくりの方向性などについて一言お願いできますか。

今後も池田市が市民にとって「心がふれあい、住みたい、住み続けたいまち」であり続けるため、常に軸足は市民の側に置きながら、複雑多様化する市民ニーズに的確かつ迅速に対応していきたいと思っています。

また、分権時代の進展の中で、より「池田らしさ」を創出するまちづくりを市民との協働で展開し、個性豊かで活力のあるまち池田の実現に取り組んでいきたいと考えています。

これからも、池田市の持ち味を發揮した取組で、まちの素晴らしさに磨きをかけていかれることを期待しています。

本日は、お忙しい中、ありがとうございました。

池田市ホームページアドレス

<http://www.city.ikeda.osaka.jp/>